

～的確な穂肥施用と水管理で稲体の活力を維持させよう！～

1 7月8日現在の生育状況

○出穂は平年並みの見込み。

品 種 名	出穂予想日
コシヒカリ (平坦地)	8月 2日
コシヒカリ (中山間)	8月 5日
コシヒカリ (山間地)	8月 11日
みずほの輝き	8月 10日

【7月8日現在のコシヒカリの生育概況】

草丈	茎数	葉数	葉色 (SPAD 値)
並 (64cm:94%)	並～やや多 (532本/m ² :110%)	並 (11.0葉:-0.3葉)	濃い (36.6:+2.1)

※()内は、測定値：指標値との比較

※稚苗5月10～15日頃、中苗5月15～20日頃に移植した場合。

2 2回目の穂肥の確実な実施 ～出穂前の葉色低下を防ぎましょう～

- 今後の気温は高温が予想されるので、2回目穂肥は確実に施用しましょう。
- 2回目穂肥の施用後で、「コシヒカリ」の出穂期までに葉色低下や下葉の枯れ上がりの懸念がある場合は、追加穂肥を行ってください。なお、緊急時の穂肥は下記表を参考にしてください。
- 基肥一発肥料に含まれる緩効性肥料は、土壌水分が不足すると窒素成分が溶出しにくくなるので、ほ場水分を十分確保しましょう。
- 穂肥時期頃から葉色の低下がみられ、出穂前の葉色が (SPAD値) 32～33 (葉色板4.5) を下回る傾向の時は、追加穂肥を実施しましょう。

表 高温が予想される場合の3回目穂肥のめやす

施肥体系(分施:基肥+穂肥)	判定時期	葉色のめやす	施用時期	施用窒素量(kg/10a)
化学肥料+化学肥料体系【慣行栽培】 ※3回目も化学肥料を施用	出穂期3日前の葉色 (注2)	SPAD 値で31以下、 葉色板で4.0以下	出穂期3日前	1kg/10aを上限
有機質肥料+有機質肥料体系【減減栽培】 ※3回目に有機50%肥料施用(注1)	出穂期6日前の葉色 (注2)	SPAD 値で33以下、 葉色板で4.5以下	出穂期3日前	1kg/10a程度

(注1)有機質肥料は、有機質由来の窒素を5割程度含む肥料のこと

(注2)葉色は単葉を測定したときの値

3 これからの水管理 ～ 飽水管理の徹底で稲体の活力を維持しましょう～

【飽水管理で稲体の健全化を図る】

- 飽水管理とは、自然に水が減って田面に水がなくなり、溝や足跡の底に水が溜まっている程度になったらかん水を繰り返す水管理です。
- 減数分裂期(出穂12日前頃)～出穂期にかけて稲が最も水を必要とする時期です。ほ場が乾くことのないよう注意しましょう。
- 高温で長期間にわたる湛水の継続は、根腐れの発生につながりやすいので、こまめなかん水を繰り返しましょう。

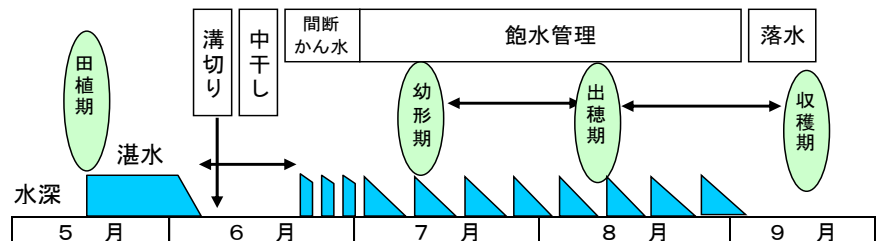


図1 水管理のイメージ ※ 幼形期は幼穂形成期の略

【完全落水は出穂後25日以降に実施】

- 早期落水は登熟が不良となり、未熟粒等が増加し品質が低下するとともに、下位葉の枯れ上がりや倒伏が助長されます。
- 出穂後25日までは飽水管理を継続し、特に登熟期間が高温で経過する場合は、出穂後30日までかん水を行い、完全落水はできるだけ遅くしましょう。

4 病害虫対策 ～斑点米カメムシ類の多発に注意しましょう！～

【斑点米カメムシ類】

上越地域管内で7月上旬(7/5～9)に実施した病害虫予察調査では、斑点米カメムシ類が平年よりも多発生している所があります。今後さらに増加する恐れがあるため、以下によりカメムシ類対策の徹底をお願いします。

- 農道・畦畔は、雑草が穂をつけないよう、3週間程度の間隔で草刈りを実施しましょう。
- 水田内のヒエやホタルイ等は取り除きましょう。
- カメムシ類の薬剤防除は、出穂期から出穂の7日後までに実施しましょう。

※カメムシの種類や薬剤により散布適期が異なるので、使用方法は必ず確認しましょう。

【いもち病】

- コシヒカリ BL 以外の品種で「いもち病の常発ほ場や葉色の濃いほ場」では、葉いもちを確認したら早急に防除しましょう。
- 穂いもちは予防散布を原則として、発生状況・品種特性に応じて適期に防除しましょう。